

平成22年度鹿児島市立清和小学校研究実践まとめ

清和小研修係

(1) 研修の基本方針

学校の経営方針，教育目標，努力点並びに本年度の研究テーマに即して，全職員一丸となって，創造性あふれる研修活動を効率的に推進し，教師の資質や授業力の向上を図り，児童の豊かな人間性の育成を目指す。

(2) 研究主題

子ども一人一人が，確かに読む力を高める国語科学習指導の構想
～説明的文章の指導を中心に～（2～3年次）

(3) 研究で目指す子ども像

「確かに読む力を高める」ことによって，次のような子どもの姿が見られることを期待している。

- ① 授業中の発表や話し合いの際に，互いに分かりやすく説明したり聞きとったり読み取ったりすることができる。
- ② 日常生活においては，係活動・委員会活動・クラブ活動・児童集会・児童総会等の活動の中で，分かりやすく発表したり話し合ったりし合う姿が期待できる。

そこで，「確かに読む力」を育てるためには，国語科学習（説明的文章の読解）を中心にして，実践を進めていくことが必要である。

(4) 研究の視点

【21年度（2年次）】

- ① 「読む力」や「指導過程のモデル」を構築する。
- ② 「読む力」の系統性・重点化を図る。
- ③ 「説明的文章単元」の授業を実践する。
 - ・ キーワードに気をつけてサイドラインを引かせる指導はどうあればよいか。
 - ・ 接続語・指示語・語尾の表現に着目した指導の在り方はどうあればよいか。
- ④ 言葉への関心を高め，言葉の知識を身に付けさせられる言語環境を構築する。



これを受けて，今年度はどういう教材・教具を使って指導していくかが課題となる。

【22年度（3年次）】の研究の視点

「説明的文章」の指導において，効率的・効果的な指導法，教材・教具・資料の工夫を進め，授業実践を通して目指す子どもの姿に近づけていく。（デジタル教科書を使った授業実践をはじめとして，ICT機器の使用，これまでの教材・教具等の効果的な活用。）

〈22年度の研究実践〉

月	日	曜	担当及び形態	時間	内 容	外部講師
4	12	月	全体研修	55	研究の進め方の共通理解	
5	10	月	ICT 全体研修 ICT 学年(部)	80	ICTの使い方 (デジタル教科書)	
	24	月	学年(部)研修	40	授業構想(指導案)検討	
	31	月	学年部研修	30	授業構想(指導案)検討	
			全体研修 (学力向上)	50	全国学力・学習状況調査分析発表	
6	14	月	学年部研修	40	低・中・高(授業反省) 授業者 2年4組(中原安彦) 3年3組(福村あかり) 6年3組(西留栄俊)	藤崎隆博(中山小) 新田 薫(市教委) 柳野理枝(西陵小)
8	19	木	全体研修	60	1学期の実践報告(6年)	
9	6	月	全体研修	70	1学期実践紹介(2年・3年)	
	27	月	学年(部)研修	70	授業構想(指導案)検討	
11	1	月	学年(部)研修	70	授業構想(指導案)検討	
	15	月	学年部研修	70	低・中・高(授業反省) 授業者 1年4組(國分裕二) 4年1組(原田光一郎) 5年3組(松浦昭子)	木原敏行(市学情) 田中伊礎子(市図館) 新田 薫(市教委)
2	21	月	全体研修	55	研修の成果と課題 次年度のテーマ研修について	
3			研究記録収録誌「軌跡」仕上がり(全員の実践例を掲載)			

【授業実践例の紹介】

- 1学期に2年・4年・6年の実践授業を行い、2学期は1年・4年・5年の授業を通じた研修を行った。1学期の反省を踏まえ、国語科における2学期の授業の視点を以下のように設定し、実践してきた。

〈視点1〉① ICT機器が児童の立場に立って活用されていたか。(ICT機器とこれまでの指導方法のそれぞれのよさが活かされていたか)

〈視点2〉②言葉への関心を高める手立てとして、個人差に応じたワークシートや資料の活用がなされていたか。

③児童が主体的に学習を進めるために、児童自身が考え、解決していく場が設定できていたか。(ICT機器や言語活用を通して)

【実践例1（低学年）】

1年4組 國分 裕二

○ 教材名「いろいろなくちばし」（説明文）

【視点1】「説明的文章単元」の指導において、「確かに読む力」を育てる上でICT機器の効果的な活用となっていたか。

ICT機器の活用	○成果と●課題	児童の反応
<p>◎<u>デジタル教科書</u> 本文を提示して、一斉にサイドラインを引いた。</p>	<p>○ 本文を提示しながら、「問い」と「答え」の文にサイドラインを引いたり、ポイントになる言葉（指示語・接続語）を囲んだりして、一斉に確認することができた。</p>	<p>○ サイドラインやポイントなる言葉を実際に押さえながら、作業を進めることができた。</p>
<p>◎<u>デジタル教科書</u> 挿絵を活用して、くちばしの様子を観察した。</p>	<p>○ 画像を大きく提示することができ、くちばしの特徴（形や用途など）を詳しく説明することができた。 ● いろいろな種類の鳥の画像を並べて提示することができなかつたため、比較することができなかつた。</p>	<p>○ 細かい部分を指し示しながら、詳しく説明することができたので、くちばしの特徴を実際に捉えることができた。</p>
<p>◎<u>書画カメラ</u> ワークシートへの記入の確認や答え合わせをした。</p>	<p>○ ワークシートを書画カメラで提示することで、記入の仕方や答え合わせなど効率よく作業を進めることができた。</p>	<p>○ ワークシートへの記入が素早く確実にできた。</p>

【視点2】言葉への関心を高める言語環境が構築され、言語や機器等を使って分かりやすく説明しようとする子どもの姿が見られたか。

- 「問い」と「答え」の文を比較したり、説明の内容の順序を考えさせたりして、説明文の構成や言葉の使い方を丁寧に繰り返し確認することで、児童が説明文を書くときに円滑に書くことができた。
- 現時点では、デジタル教科書や書画カメラを活用して進めると教師主導型になってしまい、児童が主体的に学習を進めることができていない。

○ 教材名「じどう車くらべ」（説明文）

【視点1】

- 1学期の説明的文章単元「いろいろなくちばし」と同様に、本文を提示しながら、「しごと」と「つくり」の文にサイドラインを引いたり、ポイントになる言葉（指示語・接続語）を囲んだりして、一斉に確認することができた。
- 書画カメラで児童のワークシートを映し、発表の補助機器として活用することで、児童は意欲的に発表することができた。
- 図書室の本やデジタル教科書、インターネットを活用して、いろいろな種類の自動車の「しごと」と「つくり」を調べ、まとめることができた。



【視点2】

- 「しごと」と「つくり」の文を比較したり説明の内容の順序を考えさせたりして、説明文の構成や言葉の使い方を丁寧に繰り返し確認することで児童が説明文を書くときに円滑に書くことができた。

- 段階的に記入ができるワークシートを活用することで、子どもたちは自分の言葉で文章を書くことができるようになってきた。
- 教材文の文章構成は理解していても、それを活用して自分で説明文を書くことは難しく個人差が見られた。

【実践例2（中学年）】

4年1組 原田光一郎

- 単元 材料の選び方を考えよう
- 教材「アップとルーズで伝える」「四年三組から発信します」

【視点1】ICT機器が児童の立場に立って活用されていたか。（ICT機器とこれまでの指導法のそれぞれのよさが生かされていたか）

ICT機器の活用	○成果と●課題	児童の反応
◎デジタル教科書で本時の場面を提示する。	○写真の様子が分かる文を文中から探させ、写真に題をつけることができた。 ●操作に時間がかかってしまった。板書が早くてよい。	・教科書のどこに書いたらよいか確かめながら書くことができた。
◎サイドラインを引かせ、書画カメラで確認する。	○児童に書画カメラの操作をさせるとき、見る立場に立って見やすいか意識させながらでアップとルーズをさせることができた。	・「アップ」と「ルーズ」の撮り方の違いをどの部分にサイドラインを引くのか確認できた。
◎デジタルカメラを使って、アップとルーズの写真を撮影する。	○グループごとに、壁新聞をつくる活動の中で、読み手に伝えたいことを伝えるためには、アップとルーズの写真のどちらがよいか話し合いながら作業を進める姿が見られた。 ●デジタルカメラが故障しているのがあったりして、班の数だけ台数が足りず、担任個人のものも貸し出している活動だった。	・デジタルカメラの操作やプリントアウトの仕方に慣れることができた。

【視点2】言葉への関心を高める手立てとして、個人差に応じたワークシートや資料の活用がなされていたか。児童が主体的に学習を進めるために、児童自身が考え、解決していく場が設定できていたか。（ICT機器や言語活動を通して）

- 書画カメラを使って確認しながら「アップ」と「ルーズ」それぞれの長所と短所を読み取ることができた。
- 「アップとルーズで伝える」で学んだことを「四年三組から発信します」の壁新聞づくりで生かすことができた。
- 書くことが苦手な児童用にヒントカードのワークシートを準備したが、うまく活用することができなかった。
- 隣の席の人と意見を交流する時間を設定し、意見や考えを練りあう場を設定する必要があったが、設定することができなかった。

【実践例3（高学年）】

5年3組 松浦 昭子

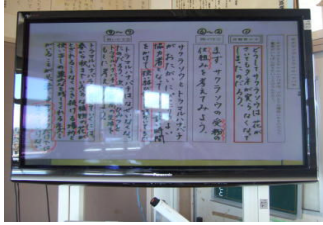
単元名 目的に応じた伝え方を考えよう

教材名 「ニュース番組作りの現場から」（説明文）

【視点1】「説明的文章単元」の指導において、「確かに読む力」を育てる上でICT機器の効果的な活用となっていたか。

【視点2】言葉への関心を高める言語環境が構築され、言語や機器等を使って分かりやすく説明しようとする子どもの姿が見られたか。

○ ワークシートのヒントカードを作成し、児童の実態に合わせて配

ICT機器の活用	○成果と●課題	児童の反応
◎前時までの学習の内容をまとめたプリントを書画カメラのSDカードに入れておき映し出した。 	○前時までの振り返りを簡単に行うことができてよかった。 ○SDカードに入れておくことでいつでも活用することができる。 ●光は反射してよく見えない子がいて、テレビを使う度にカーテンを引かないといけない。	○前時までの学習について振り返り、確認できた。 ○テレビでの学習には興味をもって注目することができるが、見にくい席の子には配慮が必要。
◎書画カメラを使って、子どものノートを紹介	○子どもが書いた物をそのまま映せるので、興味・関心が高まった。 ●恥ずかしがって嫌がる子がいるので、誰のノートでも映し出せるようにしたい。	○ノートをきれいに書こうとする様子が見られた。 ○ノートの書き方の参考になった。
◎デジタル教科書の参考に載っている写真や資料を活用	○写真や資料を使うことで内容を理解するための参考にすることができた。	○写真など興味をもって見ることでできた。
◎インターネットやDVDで実際のニュースや子どもが作ったニュースを資料として紹介	○実際の映像を観ることで、自分たちが今から取り組む学習に見通しを持つことができた。	○今後の見通しがたち、興味を持って学習することができた。

布し活用させることで、自分で取り組もうとする姿が見られた。

○ 主体的に学習を進めるためにグループで話し合いをさせ、解決できるようにした。自分なりの考えをもってから、グループで話し合いをさせ、みんなで考えることで自信をもってまとめ発表することができた。

● 高学年では読み取りにはあまり時間をかけず、要点を見つけ要約をして、自分の考えをもつことや友達考えに意見を述べる時間を長く取る必要であるが、やはりある程度読み取りをしないと、理解できない児童も多い。



本年度の研修の成果と課題について

【成果】

- 児童の発表力がついた。
- 児童が自分で調べたりまとめたりしようとする姿が育った。
- 班活動が充実し、意欲的にまとめたり発表したりする姿が見られた。
- クラスでの発表がほかの場でも生かせるようになった。(集会活動・学校行事など)
- ICT機器が活用できるようになった。(簡単に使えるようになった)
- ICT機器を活用して、授業の中で生かせるようになった。
- ICT機器を使うことで、今までやってきたアナログ的な効果のよさにも気付いた。
- デジタル教科書の使い方が分かり、授業の中で生かせるようになった。

【課題】

- ICT機器の効果的な活用法。(授業にどう生かしていくか)
- アナログとデジタルの融合。(バランス・使い分け)
- ノート指導の工夫。(マスを使えない子どもが多い・家庭との連携)
- 児童の語彙力をどう増やすか。(言葉を知らない)
- 言葉遣いの指導，目上に対する言葉遣い。(国語科の授業を通して<丁寧語・敬語>)
- 環境面の整備。(学年棚に辞書がほしい)
- 発表の場の設定。(調べたことをどのような目的でどんな人に発信していくか)